

2 2 0

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第5回です。

クラスの大半ががんばり屋でしたが、長くエンジンがかからない子たちも存在しました。生え抜きのHさん、小6入会のYMくんやSJくんはかなりの怠け癖がありました。それでも彼らもTOPにこだわり続けたことで、受験に意味を見出していきました。

中でもSJくんはマイペースが際立っていました。

入会当初、お母さんが「努力しないくせに、自分はできると勘違いしている。」と話されていた通り、やっていない分自分の弱点に気づかず、地頭(じあたま)だけで勝負しようとしていました。目標も御三家中を口にしていたのですが、努力を軽んずる当時のSJくんにとってはそれは目標ではなく、絵空事のような憧れに過ぎませんでした。

それがTOPでずっとコツコツやって来た子たちには遠く及ばないことを突きつけられ、初めてスタート地点に立つことになりました。当たり前

のことをやらない、出来ることをやり切ろうとしない、そんなS J くん
に私たちは勝負の厳しさを伝え、あらゆる能力はそれを誠実に磨く意志
によってのみ開花するんだと訴え続けました。

面談の際、お母さんがこんな話をしていました。

「塾に行く前の車の中で、『今日もやってない、きっと怒られる。でも
出たい。…行ってくる！』と腹を決めたように行きます。ずっと逃げて
来た今までのあの子からしたら、本当に変わりました。それだけでも通
わせてよかったです。」

S J くん TOP 生への道のりはこんな風にとても時間がかかりました。
それでも最後まで貫徹したことで、大きな財産を手にしたのは、全ての
TOP 生と共通しています。

YM くんもとても幼い男の子でした。

一見、素直で字も丁寧なのですが、通塾しているうちにその勉強が理解
を目的にしていない、終わらせるため、見せるためだけの「お勉強」に
過ぎないことが明らかになりました。初めのうちは解説や答えを写すだ
けのことも多く、思考することをとにかく嫌いました。多くの塾ではこ
ういった姿勢の子は放っておかれ、何も手を施されることもないまま入

試本番で儂く散っていくのですが、私たちはそうしたくありません。腑に落ちるまで、理解するまで、身につくまで問題や課題と向き合かせます。YMくんはそんな中で、本当に長い時間をかけて変わっていききました。

入会当初、YMくんはとても少ないとは言えない量の薬を服用していましたが、その量は目に見えて減っていき、最後の方は全くと言っていいほど飲まなくなりました。

私たちはずっと「現実と向き合うことが一番の薬だ。現実に勝る薬はない」と言い続けましたが、YMくんの奥底にもちゃんと強さは眠っていました。

(次回につづく)

2020年10月5日

大井 雄之